

病防第27号
令和元年7月25日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)
このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記
令和元年度病害虫発生予察注意報第1号
(斑点米カメムシ類)

令和元年度病害虫発生予察注意報第1号

令和元年7月25日
岐 阜 県

作物名 水 稲

病害虫名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 飛騨地域
- 2 発生時期 7月下旬以降
- 3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 7月中旬に実施した水田畦畔のすくい取り調査において、アカヒゲホソミドリカスミカメの平均成虫数は4.2頭(平成1.3頭)と平成の3.2倍多かったことから、出穂期以降本田への侵入が多くなることが懸念される(表)。
- (2) 5月第1半旬から7月第4半旬の予察灯におけるアカヒゲホソミドリカスミカメ累積誘殺数は、高山市国府町で707頭(平成372.8頭)と平成の約1.9倍、下呂市萩原町で207頭(平成59.5頭)と平成の約3.5倍であった(図1、2)。
- (3) アカスジカスミカメについても、7月中旬に実施した水田畦畔のすくい取り調査において、成虫数は12地点中5地点で平成より多く、平均成虫数は1.6頭(平成0.6頭)と平成の約2.7倍多かった(表)。

5 防除上の注意事項

<本田および畦畔の管理>

- (1) 斑点米カメムシ類は、出穂期と同時に水田に侵入し、開花～糊熟期にかけて水稻を加害し、斑点米を発生させる。
- (2) 斑点米カメムシ類の生息密度を低減させるため、畦畔、農道ぎわ、水路ぎわ、休耕田、および水田周辺などの除草を地域全体で一斉に行う。特に、イネ科雑草は好適な餌植物となるため出穂させないように管理する。
- (3) 水稻の出穂直前および出穂後の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込み、被害を助長する恐れがあるので出穂10日前までに実施する。
- (4) 水田内のヒエ類等のイネ科植物は好適な餌植物となるため、水稻が出穂する前に除去する。

<薬剤による防除>

- (1) 散布剤による防除は穂揃期およびその7～10日後の2回実施する。
 - (2) 粒剤による防除は出穂期の7～10日後が基本となるが、使用する薬剤により防除時期が異なるので注意する。
 - (3) 住宅地付近での防除は、事前周知に努め、薬剤が飛散しないよう注意する。
 - (4) ミツバチが飼養されている地域で防除を行う場合は、養蜂業者との連携を密にし、危被害の未然防止に努める。
 - (5) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
- (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm 農林水産消費安全技術センター)

— 参考資料 —

表 水田畦畔における20回振すくい取り調査による斑点米カメムシ類の成虫数

調査地点	アカヒゲホソミドリカスミカメ		アカスジカスミカメ	
	本年	平年	本年	平年
高山市国府町	6.0	5.1	7.6	4.3
高山市丹生川町	1.7	0.2	0.3	0
高山市清見町	4.3	0.5	1.0	0.1
高山市荘川町	3.0	0.8	0	0.4
高山市久々野町	8.0	2.7	0	0.1
高山市上宝町	2.0	0.5	0	0.7
下呂市萩原町	3.0	1.8	0	0.1
下呂市金山町	1.3	0.1	0	0.2
飛騨市古川町1	3.3	0.5	0	0.1
飛騨市古川町2	12.0	0.8	1.7	0.2
飛騨市宮川町	3.0	1.8	0	0.7
飛騨市神岡町	2.3	0.7	8.6	0.3
平均	4.2	1.3	1.6	0.6

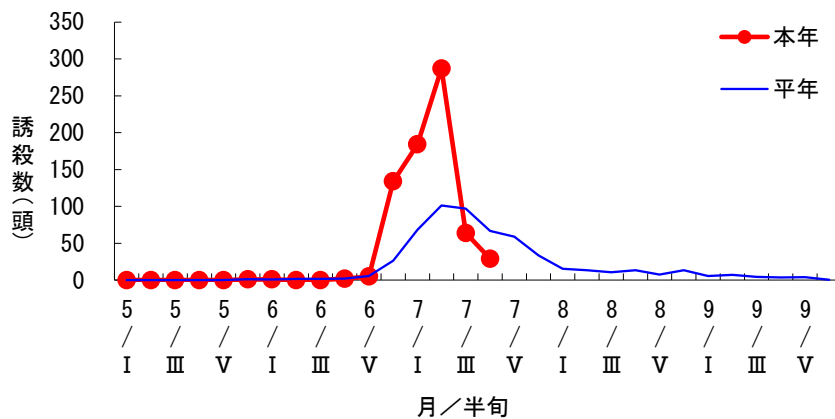


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメ誘殺数の推移 (高山市国府町 予察灯)

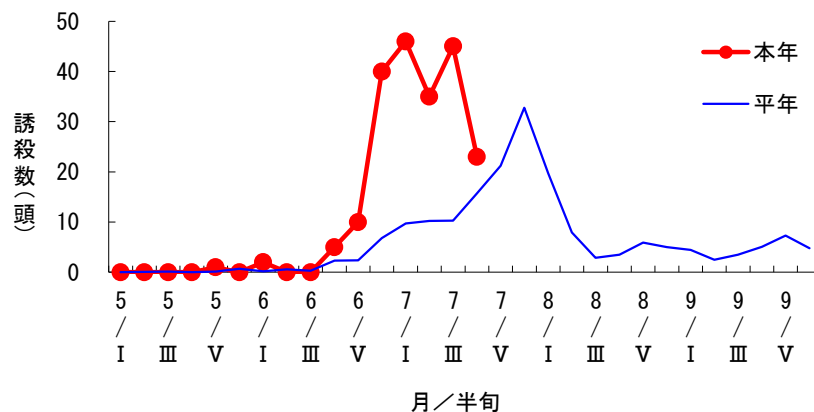


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメ誘殺数の推移 (下呂市萩原町 予察灯)